

新制服開発における新たな挑戦

プロセス全体でSDGsを見直す

JALは今月、制服の刷新を行いました。これまでの制服のよい点を生かしながら、優れた品質と必要な機能を兼ね備えた制服を製作しました。開発においては製造工程、生地選定、廃棄など、プロセス全体でSDGsを意識しました。

製造はベトナムと中国の工場で行われます。工場選定では、「持続可能性に配慮した調達コード」に基づき、SMETA監査（児童労働や無賃金労働の有無を調べる監査システム）を実施し、問題がないことを確認するなど、人権や労働環境に配慮して選定を

しました。使用する生地には、環境に配慮した再生ポリエステルを採用。耐久性に優れており、制服が長持ちします。

リサイクルを重視した廃棄システム

不要となった整備士などの制服は、制服再資源化に共に取り組んでいる株式会社チクマのリサイクル工場に送られます。工場では素材の選別後、機械にかけて細断。小さく刻まれた細断品を何度もときほぐし、ワタ状になった生地は、再資源化され吸音材として自動車のエンジンルーム内や車内などに広く使用されます。JALは今後も、持続可能な社会の創造に挑戦してまいります。

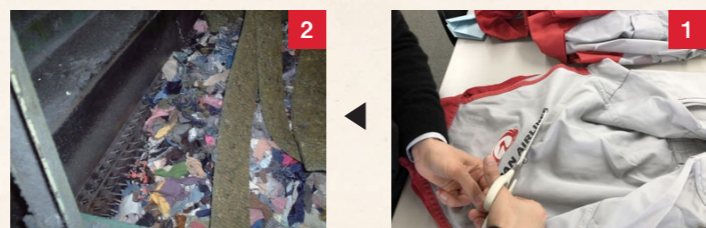
今回のテーマに当てはまる目標



01.~03.オフィスユニフォームを中心とした、ベトナムの縫製工場「UNIMAX SAIGON」の様子。04.検品作業では、平置きの状態とトルソーに着せた状態の両方で問題がないか確認します。



リサイクルの流れ 吸音材として生まれかわるまで



回収

回収した制服を切り、発送。



再資源化(反毛化)

何度もときほぐしてワタ状に。



再製品化

自動車用吸音材として、エンジンルーム内や車内に使用。



細断

集まった制服を機械で細断。

制服の変遷

6代目

1977.10-1987.12

当時人気のあったテレビドラマでも着用された制服。

JALの出来事...1984年には温暖化防止への取り組みとして、国際線の定期旅客便で初めて上空の二酸化炭素濃度を計測しました。



8代目

1996.10-2004.3

初めて帽子が廃止されました。

JALの出来事...客室乗務員の呼称が、スチュワーズからフライトアテンダントになりました。



10代目

2013.6-2020.3

ベルトにも鶴丸ロゴを採用しました。

JALの出来事...社員への新規貸与時において、リユース品の活用を始めました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。